

こもれびの森 通信 10月号

2015

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ9月-

～初秋の自然観察会とお茶会～

9月27日(日)は快晴に恵まれ、参加された方々はそれぞれの秋を楽しみました。園内に咲く秋の草花を、童心にかえて摘む姿が印象的でした。

「こもれびの森」に響きわたる琴の音色は、幽玄で、奥深いものを感じさせます。また同時に「お茶会」もおこなわれ、和菓子もおいしくいただきました。



＜お琴の演奏＞

摘み取った草花は、竹の一輪挿しに飾り、秋を感じながら観賞しました。自然観察や和菓子づくりにご協力いただいたサポーターの皆様へ感謝します。



＜お花摘み＞



＜お茶です・・・＞

～好評のパッチワーク展～

5日から、佐藤タキ子先生の「パッチワーク展」を開催しました。2m以上もある大作から、バッグやクッションなども展示され、好評のうちに27日に終了しました。



＜バッグもあります＞

また、パッチワーク展開催中の13日には、「パッチワークを楽しみましょう」というテーマでイベントを実施しました。今後も、「藍染め」や「一閑張り」「かご編み」などの手芸や工芸の分野も充実していきたいと思います。



＜壁一面の作品＞

こもれびの森の かわいいことりたち

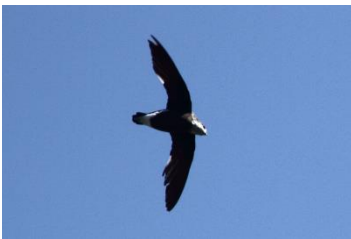
こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の友さんのコーナーです

“ハリオアマツバメか新幹線か?”

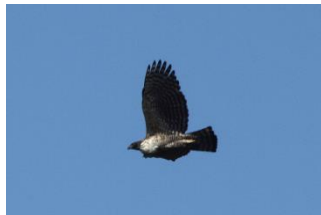
“新幹線を超える速さ”ハリオアマツバメの群れが科学館上空を乱舞しました。翼がとても長く、尾が燕尾ではありません。時速300km前後の水平飛行についていけません。3時間ほどで去っていききました。渡りの途中で“昼の食事”だったのでしょうか。撮影した鳥はこれで60種です。

“また会えたクマタカ!!”

“再会クマタカ”7か月ぶりで悠然と翔ぶ雄姿です。いつもより遅かったのが心配でしたが一安心です。子育てをしていたのだといのですが。(大友)



＜①ハリオアマツバメ＞



＜②クマタカ＞

ミツケ! こもれびの森

こもれびの森でみつけたよ

虫は芸術家なり?..

虫は時として芸術家なる?。虫は葉っぱや木の皮をかじってエサにしたり、虫コブを作って卵を宿したり、幼虫を育てたりして子孫を残そうとする。このかじった痕跡やコブの出し方が実に面白い。虫たちは当然、意識して造形?するわけではないが、人様が見るとどうして見事な出来映えと見える作品となる。ハモグリバエやハキリムシは野菜の葉っぱにつく嫌われ虫だが時として面白い文様を作る。虫コブも虫と葉の種類により様々な形になる。

ほんのほんの小さな虫だけど彼らの営みの過程に芸術品ができる。自然界は実に面白いものである。(は)

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー



＜ハキリムシの切り絵模様＞



＜キクイムシの見事な幾何学的迷路＞



＜ハモグリバエのナスカの地上絵＞



＜ヤマブドウトックリフシの小人の帽子＞

まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

～これもハコベの仲間?!～ ..「ナンバンハコベ」..

「ナンバンハコベ」(南蛮繁縷)は、別名「ツルセンノウ」ともい、つる性の多年草です。特徴のある花は夏～秋にかけて咲き、花びらの先が2裂するところは「ハコベ」と似ています。

「南蛮」とは、本来、16世紀頃から日本に進出したポルトガル・スペインなどの異国を指す言葉ですが、転じて「異国風で珍しいもの」という意味に使われるようになりました。

この植物は、外来植物のようなイメージが漂いますが、古くから日本に自生する在来種であり、本来の「南蛮」の意味とは全く無関係なようです。花の形や黒く熟す実などが異様な感じがして、これが遠い異国から来た珍しいものとして「南蛮」の名がつけられたようです。

同じナデシコ科で、本家の「ハコベ」もびっくりするような姿形に「南蛮」の名がついていることは、とてもピッタリなネーミングだと思います・・・「森林科学館」の庭園では、初秋に風変わりな花を見ることができます。是非、ご来館を・・・(千葉)



「ナンバンハコベ」
＜ナデシコ科・つる性多年草＞

雑記

こもれびの森「森林科学館」の開館(今年度)も残すところ後1ヶ月半となりました。ここの所晴天に恵まれ、紅葉も一段と鮮やかさを増しています。またノーベル物理学賞・医学生理学賞と日本人二人が受賞し、誇らしげな気持ちです。ニュートリノは、人間はおろか地球をも軽々と通り抜けてしまおうか。人間の足の面積の地面には一億個以上の微生物がいるとか興味深い話題が提供され、にわか勉強してみたくなりました。人間は60兆の細胞で作られていると言われていますが、原子の数にするといくつになるのだろう、原子核と電子を恒星と惑星に見立てると人間そのものが宇宙のよう、などと取りとめもない想いをめぐらせて楽しんでいます。残り少ない秋の日をゆっくりと森林科学館でくつろぎ、自然や宇宙に思いをめぐらせて戴ければ幸いです。 宮城県こもれびの森「森林科学館」(山本)